

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192500056		
法人名	社会福祉法人 古平福祉会		
事業所名	認知症グループホーム 夕凧 (夕凧フロア)		
所在地	古平郡古平町字浜町645番地 いきいき生活支援センター風花内		
自己評価作成日	平成27年6月12日	評価結果市町村受理日	平成27年7月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0192500056-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0192500056-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・その人らしい生活や生き方を重視し、日々の支援にあたっています。また、個人計画も同様の内容を意識し、6ヶ月おきに更新し作成しています。</li> <li>・身体機能が維持向上できるよう、月1回は機能訓練指導員に訪問して頂き、運動を行なっています。また、日々の生活の中にも全身体操や嚙下体操、レクリエーションを行ない、楽しみながら体力の維持が出来るよう心がけています。</li> <li>・毎月の行事や畑を通し、地域の交流や四季を感じ取れるよう支援しています。</li> </ul>
---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成27年6月27日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>日本海に面した古平町中心部に近い閑静な住宅地に位置し、近くには町の福祉施設「元気プラザ」、診療所等があり生活環境に恵まれている。木造2階建ての1階にグループホームとデイサービス、平成27年4月から2階の「高齢者共同生活住宅」をグループホームに事業変更して2ユニットのグループホームで運営している。母体運営法人は、町内で多くの福祉施設を運営し、行事、災害対策等でお互い連携を密にして事例を共有しながら質の高いケアを心がけている。居間、食堂は一体的でゆったりして家庭的な雰囲気、職員は明るくて親切で、利用者の健康状態を把握して、全身体操、心身の状況に応じた輪投げなどのレクリエーションを行って五感に刺激を与え、毎月機能訓練指導員による専門的なりハビリを行い体調管理に努めている。利用者は地域の祭り、盆踊り、文化祭などに参加して地域住民と交流し、野外昼食会などの事業所行事に地域住民が参加して相互に交流している。居間、食堂には利用者と職員が作った季節の作品を掲示し、利用者は手芸、ちぎり絵などをしたり、広い廊下の畳の小上りなどで思い思いに過ごしている。利用者は職員、家族、地域の人々に見守られながら安心して生活している。</p>
--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

（別紙4-1）

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	風花の理念である、その人らしい生活や生き方を重視し日々の業務にあたっている。また、会議やサービス計画作成についても意識して話し合っている。	入居した後も、常に「在宅生活の継続」「地域で暮らす」「地域とつながりを継続できる環境・関係性」を重視した生活の支援などの事業所の理念を掲示すると共にパンフレットに明示し、職員会議等で話し合い職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご家族や町内の方をお誘いした野外昼食会や、地域のお祭りや法人のお祭り、盆踊りなどさまざまな行事を通し地域の方との交流を大切にしている。	神社の祭、盆踊り、文化祭などの地域の行事に参加し、野外昼食会などの事業所行事に地域住民が参加して相互に交流している。また、中学校の職場体験学習、介護相談員養成研修を受け入れて地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年、地域の実習を受け入れており、昨年度は町内の中学生の社会勉強の実習や、役場の相談員外部研修の受け入れを行っている。隣町の婦人会なども見学に見えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域の有識者を委員として迎え、報告や話し合いを2カ月に1回実施している。頂いた意見は、サービス向上に向けて活かせる様に努めている。	家族、町職員、民生委員、地域住民などが参加して、年6回開催し、行事、ヒヤリハット、避難訓練など事業運営に関する報告を行い、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険係の職員が2月おきの運営推進会議に参加して頂いており、情報交換やアドバイスを頂いている。また、町や町社協との共同の行事を企画し、協力関係を築いている。	隣接する元気プラザに町保険福祉課があり、運営状況、利用者の状況などを報告し、意見交換したり情報を得ている。また、運営推進会議参加時に助言を得たり情報交換し、町と共同で行事を企画するなど、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修やマニュアルを作成し、会議を通し全体に周知している。また、転倒予防としてセンサーを居室内に使用している方もおり、月2回評価や改善方法を話し合い、ご家族へ説明と同意を頂いている。	身体拘束をしないマニュアルを整備して、外部研修に参加し、毎月会議で改善方法などについて話し合い職員間で共有して身体拘束をしないケアに努めている。転倒予防のため家族の同意を得て1名居室内センサーを設置している。防犯のため夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、法人内の虐待防止委員会に出席している。スタッフ間で情報の共有や理解を深めている。外部研修や内部研修を通し予防を周知している。		

認知症グループホーム 夕風（夕風フロア）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内でも法人後見や任意後見を設立しており、研修以外でも、会議にて成年後見人制度・法人後見人制度・任意後見人制度などを学ぶ機会が増えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書や重要事項説明書にそって説明や確認の上、同意を頂いており、解約の時も、その内容に沿って対応をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。外部評価でのアンケートは職員会議にて報告している。また、運営推進会議にて頂いた意見は、出席できなかった方への報告とともに、次回の行事や災害訓練に活かしている。	日々の会話から利用者の意向の把握に努め、家族等の意見、要望は、面会時や行事など来訪する機会を捉えて積極的に会話を交わし、情報を提供して意見を聞くように努めている。事業所便りとして「風花新聞」を2ヶ月に1回発行し運営状況を報告すると共に利用者の日常の様子を家族等に手紙で知らせて意見を運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議にて、幹事・統括・管理者が出席し、業務や医療などの各係りから意見や提案をしている。また、今年度より、管理者から各職員の個人面談も実施し、それぞれの意見の確認や目標を持って業務に当たれるよう改善していく。	職員が話しやすい雰囲気、日常の会話や職員会議で意見や提案を聞いて運営に反映させている。業務の見直しなどの改善がなされている。又、今年度から個人面談も予定している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、法人全体会議にて各事業所の経過を報告している。また、代表幹事も、月1回の職員会議に出席し現場を把握している。資格手当以外にも勤務状況によって準職員と正規職員の差があり、努力や力量により、役職や委員への人事も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数や配置に合った外部研修へ参加しており、会議にて報告も行っている。内部研修も、職員の希望や相談に合わせ年間を通してテーマを決め、一人ひとりケアの質が上がるように目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	余市グループホーム連絡協議会へ定期的に参加し、情報交換や必要な研修や講習も出席している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前訪問にてご本人やご家族から要望や生活内容を聞き取りアセスメントしている。入居後も安心できるよう配慮し新たな変化に気づけるよう意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同上で、入居申し込みや入居前訪問、入居後も面会の際などにご本人の様子の確認や要望などをうかがっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申込みの相談の時点で、ご本人やご家族へ意向確認をしっかりと行い、個別の運動を取り入れたり、ご家族の了解の下、自由に一人で外出をされている方もいる。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で会話を大切に、趣味や得意な家事などを教えて貰ったり、一緒にいい信頼関係を築いていけるよう会議などで共有している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2カ月おきに新聞を発行しており、日常の様子を伝えている。また、居室の担当者がおり個別に経過をお手紙にして様子を伝えている。ご家族にて外出や外泊されている方もおり、送迎など協力できることがあれば相談してほしいとも伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の面会以外にも、在宅にて通っていた馴染みの美容室や病院への外出。また、敬老会や祭りなど地域の行事に参加し、懐かしい知人との交流もみられる。	一人ひとりの生活歴を把握し、祭りなどの地域行事への参加、理・美容院、買物など馴染みの関係が途切れないよう支援に努めている。知人来訪時は茶を出すなど馴染みの関係が継続出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく関わり合えるように促しているが、場面により一人で過ごす時間も大切にしている。行事の時は、それぞれ楽しめるよう席配置など工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人として、契約を終了しても、近郊にご家族がおられない方が、入院先で何か困った事態が起きた時など、手を差し伸べる必要がある時は、可能な範囲で面会や対応をしてきている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり、ご本人やご家族から意向確認をしておき、サービス計画書のアセスメントに反映している。また、上手に思いを伝えられない方には、ご家族から以前の暮らしなどの聞き取りを大切にしている。	日々の会話、表情、家族の情報から思いや意向の把握に努め、把握した希望、意向を記録し、朝夕のミーティング、ケース会議で職員間で共有して、希望や意向に添うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントは、センター方式を活用し、ご本人やご家族から生活歴や在宅にて過ごされていた時の様子などを、教えてもらい記載している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の体調変化に気付けるよう、毎日バイタル測定を実施し個人記録に記載している。また、職員間で情報共有が出来る様に入居者の一日一日の記録を記載している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画書作成するに当たり、6か月毎にモニタリングやアセスメントの見直しご本人やご家族の意向も大切にしている。会議内でカンファレンスをひらいて、ケアについて意見を出し合い、サービス計画書を家族へ説明し、同意を頂いている。	利用者、家族の意向、主治医の意見を反映させ、モニタリングを行い、ケアマネが全体プランを作成し、全体会議で協議して6ヶ月毎に現状に即した介護計画を作成し家族の確認印を得ている。状況に変化があればその都度見直すこととしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子を記載し、職員同士が共有出来るよう、日誌へまとめ打合せにて日々経過や通院の内容を報告している。又、毎日、ケアプランに反映した目標が達成できたかも評価表を用意し、毎月確認し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の多種多様な事業所と連携をとり、行事の送迎や行事の準備、畑などの協力もしてもらっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(お祭り、敬老会、文化祭)等に参加している。また、古平高齢者福祉協議会に参加し、盆踊りの復興に力を入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り、以前かかっていた病院へ通院している。また、古平エキサイ会病院医師が月1回・佐久間歯科医師が年1回往診に来訪される。法人看護師とも連携をとり、必要な治療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるように支援している。通院には介護スタッフが付き添い、受診内容を記録し、病状に変化がある場合はその都度家族に報告している。協力医療機関による月1回の訪問診療、法人派遣の看護師が2～3日に1回訪問して健康管理にあたっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のように法人看護師が訪問され、入居者の状況に応じて処置や受診への提示をしている。また、施設内不在でも法人看護師に電話で相談や助言を頂く等の連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報を病院に伝え、可能な範囲で入居者へ面会し、医師や看護師からの話を聞いて早期退院が出来るよう共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	長く生活(利用)していただくために予防の視点、早期発見のため健康診断を行い、その都度ご家族とご本人の意向を加味し協議している。	契約時に利用者、家族に「重度化や終末期に向けた方針」を説明し理解を得ている。重度化が認められた段階で利用者、家族の意向を聞きながら、主治医または協力医療機関と連携し希望に添えるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習の定期受講、AEDの取り扱いについても会議や内部研修で職員間で共有している。また、救急マニュアルや対応策をいつでも閲覧できるよう事務所に保管している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。近隣の施設や町民も訓練への参加をしてもらっている。また、町内の防災無線を設置しており、町内の津波避難訓練や原発の災害訓練にも参加をしている。	地域所民の協力を得て年2回避難訓練(夜間想定)を実施し、町民と一緒に年1回の津波避難訓練、原子力防災訓練に参加している。食糧、水、発電機などを備蓄し、防災無線を町が設置し、町と災害時の受け入れ協定を締結して協力体制を築いている。	火災、自然災害(津波・地震)などの一時避難場所を指定して、通信網が破壊された時混乱が生じないよう、一時避難場所を予め家族等に知らせ、情報を共有して利用者の所在が一時的にも不明の状況がないようにすることを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れ合いにならないよう、接遇のマニュアルを配布し、会議でも尊重した言葉づかい・姿勢を職員へ伝えている。個人情報保護マニュアル作成し、みやすい所に保管している。	その人らしい生活、生き方を重視した尊厳のある支援に心がけ、言葉づかい、来訪者の情報など、利用者のプライバシーや尊厳を損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時折、ご本人が上手に訴えや思いを伝えられないことがあり、ご家族からの情報や日々の様子から察し、ご本人が何を伝えたいか模索しながら接し対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課はあるが、入居者一人一人のペースが尊重されるように努めている。また、毎回ではないが、ニーズに合わせて個別支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを把握して、買物や美容院等の外出を通して入居者自身が品物を選べる機会を設けている。また、昼寝でも離床時は髪をとかすようにしている。		

認知症グループホーム 夕風（夕風フロア）

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ほぼ毎食の様子に、一緒に準備し後片付けも協力して頂く習慣がある。また、日常希望を聞く他年1回食事の嗜好調査を行い、好みや内容の希望などを確認している。	ごはん、汁物は事業所で作り、おかずは法人運営の他事業所で作っている。家庭により近い雰囲気調理、配膳や後片付けを行っている。畑で採れたトマト、いもなどの季節の野菜が食卓を飾り話題にしながら食事を楽しんでいる。毎年嗜好調査を行い希望などを聞いて楽しむ食事に活かしている。アンケートの結果食事が美味しいとの声が多数聞かれる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の食事摂取量を記録し、必要に応じて、療養食や高カロリーの補助食品の提供や水分強化等、栄養バランス良く摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後マウスケアを実施。口腔内の観察も心がけている。毎夜に入歯洗浄剤を使用し、入歯に不具合があれば歯科医に相談している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターン24時間表に記載し把握に努めている。職員間で共有し、少しでもトイレで排泄出来るよう会議にて話し合いをしている。オムツ類はカンファレンスなどで現状の確認や改善方法を十分に検討の上使用している。	個別の健康管理を大切に、水分摂取量、排尿、排便等を一覧表に記録して、職員間で共有し、表情や態度に気をつけながらトイレでの排泄が出来るようさりげなく誘導して自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人一人の排便間隔を把握し、水分強化・腹部マッサージ・ホットパック等を用いて、出来る限り自然排便出来るよう努めている。また、法人看護師へ下剤の頓服などの確認や相談も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日おきに入浴を促している。入居者の状況に合わせて後日に変更し、安全に入浴が出来るよう支援や工夫（職員間で共有し情報出し合っている）を心がけている。	入浴は、週3回を基本に大・小2ヶ所の浴槽を使い分け入浴希望に対応している。入浴を嫌う場合は利用者の意思を尊重して、無理強いせず、声掛けに配慮するなど工夫をしている。同性入浴介助、入浴剤を使用するなど入浴を楽しめるよう支援している。時には、温泉入浴を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体調に合わせて休息がとれるよう促し、ベッドでの仮眠時間を大切にしている。また、生活のメリハリも意識して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を薬局より貰っており、必要に応じて閲覧できるように事務所に置いてある。また、副作用等の不明点について、法人看護師や病院（主治医）に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事や家事の手伝い、植物の水やりなどそれぞれが役割を持って生活している。また、野外の散歩や畑や花壇作り、漬物づくりなど季節に合わせた楽しみも考え支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の同意の下、自由に外出されている方がいる。他の方も、時々ではあるがテラスや畑での作業・日光浴等の支援を行っている。又、祭りなどの行事以外にも、美容室・買物にて外出する機会を設けている。ご家族の対応で外泊される方もいる。	散歩、買物、テラスでの日光浴、地域行事への参加、温泉入浴など利用者の状況に応じ支援し、日常の生活に潤いと変化のある生活を提供するように工夫している。家族と外出（外泊）する利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は、紛失しても責任を負えないことを、あらかじめご本人やご家族へ説明している。また、管理が不安の方は、小口として預かりご家族来訪時には残高等の確認をして貰っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	まれではあるが、希望にあわせて電話の取り次ぎなど、手伝いをすることがある。また、毎年、お正月に年賀状を家族等に送っている。作成する時は入居者と共に行き、一言を聞きとりして代筆している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・居間前等に季節にあった飾り物を、定期的につけている。又、食堂やトイレ等の使う頻度が高い場所は、入居者が不快な思いをしないよう清潔に努めている。窓からは畑や花壇が見えるようにしている。食堂とリビングには空気洗浄機を使用。	居間・食堂は一体的な作りで、大きな窓から明るい日差しが入り、空気洗浄機を設置し、温・湿度が適正に管理され、利用者・職員が作った季節に合わせた作品を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫している。テラスには自由に出入りできるようになっていて日光浴を楽しむことが出来る。幅の広い廊下には畳の小上がりがあり、思い思いに過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・食堂・小上がりと自由に過ごせるようになっている。特に小上がりは、独りで過ごすには丁度よさそうな空間になっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室になじみのある物をおき、居心地良く過ごせるよう支援している。又、入居時に家族へ、なるべく新しいものでなく使い慣れた物を用意して欲しいと伝えている。配置替えや新しい物を購入する際は、事前に家族へ相談している。	使い慣れた家具やテレビ、馴染みの物などを持ち込み、写真等を飾り、思い出や趣味を大切に、今の生活を楽しみながら居心地よく過ごせるよう工夫している。居室から懐かしいハーモニカ演奏が聞こえることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前やトイレ等に、表札や写真・絵を貼りつけて、わかりやすい工夫をしている。また、手すりやナースコールを用意している以外にも、洗面所の前に椅子を設置し一休みできるよう工夫している。		